

意見書

割賦販売法の抜本的改正を求める

現在クレジット契約を悪用した詐欺的商法の被害が絶えない。このようなクレジット被害を防止するため今回の改正においては消費者に対し、安全、安心なクレジット契約が提供されるため、クレジット会社において被害防止と取引適正化を実現する法制度を求め、次の4項目の実現を強く要請する。

1. 過剰与信規制の具現化
2. 不適正与信防止義務と既払金返還責任
3. 割賦払い要件と政令指定商品制の廃止
4. 登録制の導入

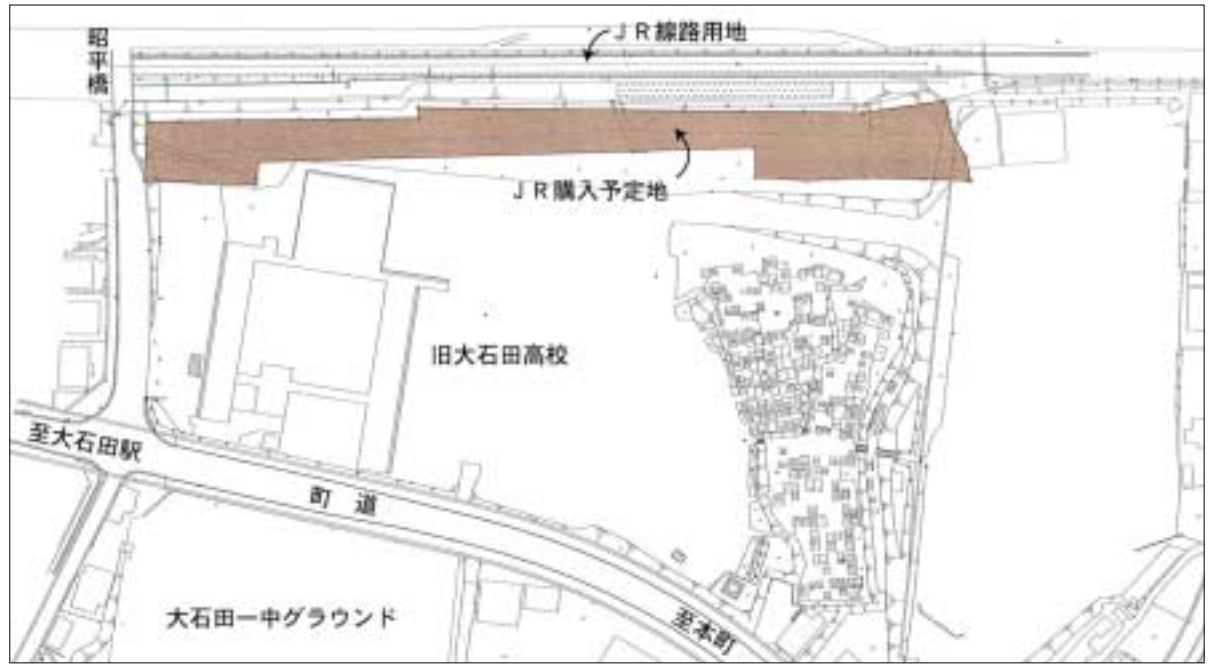
●送付先／内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、経済産業大臣

請願

■悪質商法を助長するクレジットの被害を防止するため、割賦販売法の抜本的改正を求める意見書を政府等に提出することを求める件

採 択

請願者／山形県司法書士会
 会長 峯田 文雄
 日本司法書士政治連盟山形会
 会長 早坂 幸久
 紹介議員／小林征雄



JRからの購入予定地

補正予算

【一般会計】

●小玉 勇議員
 統合中学校建設予定地のJRの防雪林購入単価70000円は高くないか。立ち木補償はどうなっているか。

●教育文化課長

町は町で、JRはJRでそれぞれ不動産鑑定士に鑑定をしていただいで交渉にあたります。立ち木は町で伐採処分する前提です。

●高橋 徹議員

横山地区流雪溝の整備は3年の期間で完成できるのか。防雪林購入価格は高すぎる。もっと安くすべきと思うが。

●建設課長

平成20年度から23年度までの4年間で町道の流雪溝整備をする計画です。

●町長

基本的なルールに基づいて交渉するが、できるだけ安くなるよう努力する。

●小林征雄議員

地方債補正、学校整備事業に2億円増額して2億7000万円にした根拠は。

●教育文化課長

年度内に用地買収、旧校舎の解体、敷地造成工事までやる予定で増額補正しています。

●遠藤宏司議員

防雪林購入単価はやはり高いと思うが。●教育文化課長
 極力安くなるよう努力したい。

●奥山克弥議員

正式な不動産鑑定結果をもとに補正すべきでは。段取りが悪いと思うが。●教育文化課長
 JRとの交渉が仙台と違うことで時間がかかっています。

●星川 久議員

統合中学校建設の県・国への申請について、現在の進捗状況は。

●教育文化課長

8月に、県から現地を見てもらいました。国への要望は11月頃、補助対象面積を確定しなければならぬのが1月です。それまで基本設計、実施設計を完了しなければいけないので、急がせています。

【特別会計】

●小林征雄議員

19年度米の価格が大幅に下がり、農家が加入している国民健康保険の収入財源を直撃すると思うが。

●保健福祉課長補佐

非常に厳しくなります。19年度は基金を取り崩して何とかなるが、今後が心配です。

議員提出議案

条例関係

地方自治法の一部改正及び議員定数削減に伴い町議会委員会条例と町議会会議規則をそれぞれ一部改正する発議が議員より提出され、全員起立で可決しました。

●大石田町議会委員会条例の一部を改正する条例

●大石田町議会会議規則の一部を改正する規則の制定について

人事関係

教育委員会委員同意されず

本議会最終日に町長より追加議案が上程され、新たな教育委員の任命について審議されました。質疑をおこなったあと無記名による投票表決がおこなわれました。投票の結果、投票総数15票のうち、賛成が7票、反対が8票(反対票のうち白票3票、白票は町議会会議規則により反対票になります。)となり、1票差で同意されませんでした。

臨時議会

統合中学校建設用地決定

第4回臨時議会が7月20日に開会され、統合中学校を旧高校跡地に建設する設計業務委託料を盛り込んだ一般会計補正予算を賛成9、反対6の賛成多数で可決しました。質疑内容は次のとおりです。

●伊澤 清隆議員

Q 今回の補正予算はいったん取り下げて、町民の理解を得てから予算の審議をしては。
 A 22年度開校に向けた場合で、補助申請を採択してもらうには時間的に間に合いません。

●村形 昌一議員

Q この補正予算が可決されたら、間違いなく22年度開校を保証するのか。
 A 全力を挙げて22年度に開校すべく努力します。

遠藤 宏司議員

Q 町道と墓地で学校敷地が3分割される敷地は、教育施設として良好といえるのか。
 A 墓地があるから、林のそばだからということ。環境が悪いとは一概にいいない部分があると考えます。

●奥山 克弥議員

Q 旧高校にある巨大な船はどうするのか。県に返せないのか。
 A 県にお返しすることも選択肢に含め、なお検討を深めていきたい。

●小玉 勇議員

Q 旧高校の解体に一般財源持ち出しゼロ、一中の解体には全部持ち出しとなっている。この違いは。
 A 旧高校の解体は起債の対象となるが、一中の解体は、解体跡地に建物を建てないことから起債の対象にならない。

反対討論

●小林 征雄議員

現在の町有地活用のメリットは認めるが、高校跡地最大の欠陥、敷地の分断から反対します。

●遠藤 宏司議員

子どもや父母、町民の立場に立った学校建設を進めて欲しい。

賛成討論

●齋藤 公一議員

早期開校、教育環境の整備、財政問題の3つを基軸にして、教育委員会の最終答申を受けての提案に賛成します。

●村岡 藤弥議員

子ども達、父兄の皆さんは一日も早い開校を願っている。このことから、早期開校をお願いします。

